

# 看護学科 ディプロマ・ポリシー/カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー(DP)	カリキュラム・ポリシー(CP)
看護学科では、所定の卒業要件を満たし、以下の能力を修得した者に学士(看護学)の学位を授与します。	看護学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。
<b>1 知識・専門性【学びの基礎力を基盤とした専門能力】</b>	
<p>a. 自ら教養・基礎学力を修得し、自立的・主体的に学ぶことができる。【教養・基礎力】</p> <p>b. 看護学の知識・技術・態度について体系的に修得し、臨床の場で適切に適用することができる。【看護学の専門性】</p>	<p>看護学の専門知識を学ぶ前に、まず、看護学の教養・基礎学力となる医学及び公衆衛生学の基礎的な知識を学べるよう、医学系の科目と公衆衛生学の科目を初年次に学びます。看護学の知識、専門性を修得していくために、各科目群において、概論、各論でその科目群の看護の専門的な知識を学びます。【看護学・看護実践の基礎】の科目群では、看護実践の基盤となる知識を修得します。【健康増進・予防と看護】の科目群では健康の概念、健康増進・予防の看護について学び、対象別の健康増進・予防の看護の知識を修得します。【健康段階における看護】のうち&lt;急性期における看護&gt;の科目群では、急激な健康破綻をきたす対象者及び家族への看護の基本的知識、対象別の急性期の看護の知識を修得します。また&lt;慢性期における看護&gt;の科目群では、慢性、非可逆的健康問題を抱える対象者及び家族の看護の知識、対象別の慢性期の看護の知識を修得します。【集団・地域の健康問題に関わる看護】では、集団や地域の健康問題に関わる看護についての知識を修得します。</p> <p>そして、看護学科で必ず身につけるべき技術を修得していくために、1年次から演習科目を学べるようにしています。また、実践の場で学ぶこととなる実習は、2年次から始まり、学年を追うごとに看護職者としての知識・技術・態度を修得し、臨床の場でも適用できる力を身につけます。</p>
<b>2 関心・態度・人格【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】</b>	
<p>a. 人々の生命、価値観や信条、生活を尊重し、人々の尊厳や人権を擁護する行動がとれる。【人権の尊重】</p> <p>b. 看護の対象に対して積極的に関わり、必要とされる援助を計画・実施・評価することができる。【主体性・実行力】</p> <p>c. 看護職者として社会から期待される看護実践を遂行できるよう、自己研鑽できる基礎的能力を修得する。【人格形成・使命感】</p>	<p>看護学を基盤とする看護職者の役割として、人々の生命、価値観や信条、生活を尊重し、人々の尊厳や人権を擁護することを大切にしています。そのため、学科基礎科目では、倫理に関する科目を必修科目として、医療者として何を行うことが正しいことなのかを探求していきます。</p> <p>各科目群の概論、各論において、看護職者として必要な関心、態度、人格について実際の事例や経過観察等を取り上げ、グループワークを交えて主体的に学びます。そして各科目群の実習では、実際の看護の現場で看護の対象者と関わり、看護職者としてふさわしい態度、人格を修得していきます。2年次には日常生活の援助を中心とした看護と健康のための自立支援についての実習を配置しており、臨床の基礎を学びます。3年次には急性期から慢性期にかけての看護の臨地実習を行い、実際の看護の対象者と関わり、必要とされる援助方法を学びます。看護の対象者に必要と考えた看護を実践し、カンファレンスでのディスカッションを通じて実施内容を評価することで、自己研鑽につなげます。4年次には医療現場の実務に即したより専門性の高い実習を配置することで、看護職者としての技術を高めます。</p>
<b>3 思考力・判断力【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】</b>	
<p>a. 看護現象について積極的に情報収集し、論理的に情報を解釈・分析・統合し、課題を妥当に判断できる。【情報分析・論理的思考・判断力】</p> <p>b. 課題に対し、エビデンスに基づいて目標設定・解決策を立案することができる。【課題解決力】</p> <p>c. 制約された条件の中で、課題に対する多様な解決策を発想できる思考を修得する。【創造的思考力】</p>	<p>看護の対象者へどのような看護が必要かを論理的に考える思考力、判断力を修得できるよう1年次には【専門基礎科目】の科目群を中心に看護学の基礎となる身体の構造や機能、疫学、多職種連携を学び、それらの知識を統計学を用いて情報分析を行えるよう科目を設計しています。</p> <p>2年次以降は【看護学・看護実践の基礎】科目群で、基本的な看護の事例や技術について講義で学び、グループワーク等の演習を行う中で目標設定・解決策を立案する基礎を身につけます。実際に基礎実習を行い、講義や演習では学ぶことのできない状況下で課題解決を行います。</p> <p>3年次には看護の対象者の健康レベルに応じた演習と実習を配置し、これまでに培ってきた知識・技術に基づいて多様な解決策を発想できる思考を修得します。実習の中で起きた看護現象について自ら情報収集をして、グループ内で話し合いをする中で、論理的に情報分析を行い、実際の現場でも判断できる力を身につけます。</p> <p>4年次には3年次までの経験を活かして、看護実践の現場において実践に即した実習を行います。より実践的に実習に取り組むために、今まで学んできた知識、技術、態度を統合し、看護現象について論理的に問題状況の分析を行い、問題解決能力を用いて、看護問題を解決する実践力を修得します。</p>
<b>4 交感力・発信力【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】</b>	
<p>a. 相手の意見を傾聴し、アサーティブなコミュニケーションをとることができる。【コミュニケーション力】</p> <p>b. 自らの考えや看護実践を、論理的にわかりやすくまとめて表現することができる。【文章力・討議力・プレゼンテーション力】</p> <p>c. リーダーシップを理解したうえでチームメンバーとして、対象となる人々の目標達成に向けて協調・協働することができる。【チームワーク】</p>	<p>看護職者は、人を対象とするため、自分の考えを表現し相手と相互理解を深めていくことが求められます。よって専門科目の各科目群の講義、演習では、小グループによるディスカッションや発表を通して、コミュニケーション力、討議力やプレゼンテーション力を養う教授法をとっています。</p> <p>また各科目群の実習は、小グループに分かれて実習施設で実際の看護を学びます。その際、チームの一員として看護を提供しますので、看護の対象者のみならず、医療チームの一員として自らの考えを述べ、対象者への適切な看護を討議していく能力が求められます。カンファレンスやディスカッション、レポート作成などを通して、看護実践について自己内省や考えを表現し発信するコミュニケーション力・伝達力・文章力を修得していきます。</p> <p>【看護統合】の「看護研究1」「看護研究2」及び「看護ゼミ」では、今まで学んできた看護について興味、関心を持った分野を深め、論理的思考を用いて論文などで自らの考えを表現することで、自分の考えを表現し発信する能力を修得していきます。</p>